

漁民の森づくり推進事業

漁師といっしょに野洲の山に木を植えよう！！

びわ湖は、山が保全されていないと守れません。そこで、びわ湖でしじみや魚をとっている漁師が、野洲の山に木を植えることにしました。

皆さんもいっしょに、木を植えてみませんか！！

日時...1月17日 午前9時～午後1時 小雨決行（荒天時の場合は18日に順延）

集合場所...大篠原岩蔵寺付近（国道8号線浄勝寺前信号を光善寺川上流へ1.5km）

対象...どなたでも、小学生低学年以下は保護者同伴。

参加費...無料（植樹終了後、簡単な昼食を用意しています）

申し込み・問い合わせ...1月13日までに住所、氏名、年齢、電話番号をはがきまたは、電話、ファクスで農林水産課（〒520-2492野洲市西河原2400） 589-6315、勳589-5069または松沢 勳589-3939

主催...びわ湖の水と地域の環境を守る会、滋賀県水産後継者連絡協議会

共催...滋賀県、滋賀県漁業協同組合連合会、中主漁業協同組合、大篠原生産森林組合、小堤生産森林組合、にっこり作業所、野洲市

平成20年度

野洲市社会福祉大会

野洲市社会福祉大会を開催します。市民の皆さまの参加をお待ちしています。

日時...1月24日 午後1時30分～4時30分

会場...野洲文化小劇場

内容...オープニングセレモニー、式典、功労者表彰、感謝状贈呈、大会宣言、基調講演「災害に強いまちづくりのために」/菅磨志保さん（大阪大学コミュニケーションデザインセンター特任講師）

申し込み・問い合わせ...社会福祉協議会 589-4683、勳589-5783

会場への入場は、整理券が必要です。



聞こえの相談の案内 要予約

「最近、聞こえにくくなったので心配」「補聴器を使っているけど聞き取れない」などの悩みを持っている人に専門家が相談に応じます。

聴力検査もできます。検査・相談は無料。

相談日時（1月～3月）...1月13日・20日、2月10日・17日、3月10日・17日、いずれも第2・第3火曜日、午後1時30分～3時30分

会場...滋賀県立聴覚障害者センター（草津市大路2-11-33）

申し込み・問い合わせ...同センター 561-6111、勳565-6101



年金受給者の皆さまへ！ 公的年金等の源泉徴収票が送付されます

社会保険庁では、国民年金や厚生年金などの老齢年金を受けておられる方を対象として、1月下旬に「平成20年分の公的年金等の源泉徴収票」を送付します。

この「源泉徴収票」は確定申告の際に必要なとなりますので、大切に保管してください。

問い合わせ...「ねんきんダイヤル」 0570-05-1165 / IP電話受電用 03-6700-1165

し尿汲取日程

汲取予定日に留守になる家庭は隣近所に頼んでおいてください。
土・日曜日、祝日は休みです。
野洲・三上・北野・祇王・篠原学区については、汲取の必要な場合は予定日の2日ほど前から汲の赤い旗を作業員の見える所へ出してください。旗が出ていないときは、汲取はできません。
汲取の申し込み・支払いは、直接業者へ。
問い合わせ...環境課 589-6431、勳589-5069

汲取予定日	行政区および字名
6日～8日	比留田
13日	西河原・吉地
14日	乙窪・北比江
16日・19日	比江・松林
20日	吉川・菖蒲
22日	六条
26日	井口・堤・安治
27日・28日	須原・野田・五条
30日	虫生・木部・八夫
【近江美研】 589-4870、勳589-2759	

汲取予定日	行政区および字名
6日・7日	久野部・竹生・北野一丁目
9日	富波甲・富波乙・五之里
13日	辻町・上永原
15日	上町・下町・上屋
19日	江部・中北・北
20日	小南・高木
22日	篠原駅前・長島
26日	成橋・街道
27日	入町・大篠原東町・大篠原西町
29日・30日	小堤
【近江美研】、勳同左	

汲取予定日	行政区および字名
7日・8日	大畑・七間場
9日・13日・14日	行畑・野洲
15日・16日	小篠原・桜生・駅前
19日・20日	市三宅・妙光寺
21日～23日	三上
26日・27日	北桜・南桜
28日～30日	五反田・山田・縄手・樋ノ尻・稲辻・富波南
【奥村興業】 587-0015、勳587-0352 フリーダイヤル 0120-424110	

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(52)

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

休館日/月曜日、1月12日 は開館・13日 は休館。

小テーマ展

野洲の民具(34) 農具 たがやす道具

日時...1月6日 ~ 2月1日

市民の方々から寄贈を受けた民俗資料から、さまざまな耕作用具を紹介

埋蔵文化財速報展

遺跡で見る野洲の歴史(4)

日時...2月7日 ~ 3月8日

平成20年度に市内で実施された埋蔵文化財発掘調査の成果を展示

農具

「たがやす道具」

農家では、正月二日は「仕事始め」の日で、一年の農作業の始まりの行事があります。「掘り初め(ほりぞめ)」といい、鋤を持って田へ行き、一鋤掘り、松やしめ縄を飾り、供え物をするなどして一年の豊作を祈ります。また、家では、棧俵(俵の横の円い部分)

を編むのも仕事始めの日にされてきました。そして、冬から春にかけて、田起こしの作業が始まります。農業の機械化が進んだのは昭和30年代で、それまでは人力か牛を使う方法しかなく、田畑の耕作は大変な重労働でした。かつては、農家ではど

の家でも牛を飼っていて、家族のように大切にされていました。牛は、唐犁や馬鋤を曳かせて田を耕すのに大きな役割を果たしていたのです。写真の様子は、田植え前にマンガ(馬鋤)を牛に曳かせて、しろかきをしているところで、野洲市富波甲での風景です。働く牛にもわらで編んだ蓑を着せています。また、右手に綱を持ち、牛の進む方向を掛け声とともに指示します。牛も小さいころから教育がさ



牛耕(昭和30年代)野洲市富波甲
撮影・提供/藤村和夫さん

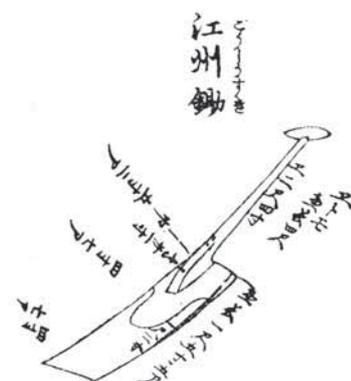
れ、石を曳かせて力をつけたりしたものでした。

人力の耕作用具に、鋤や鋤があります。なかでも近江の鋤は、特色ある形をしているといわれます。江戸時代後期、1822(文政5)年に刊行された大蔵永常著「農具便利論」には、「江州鋤」として、さし絵入りで紹介されています。この書によると、

「近江国栗太郡のあたりで使われているこの鋤は、他の地方のものに比べ、その形がいささか大ぶり、柄の取り付け部分が曲がっていて、あぜ底の土をすくうのに至って便利で、仕事がきれいにできる」としてあります。鋤は、刃に対してまっすぐな柄が付けられることが多く、特徴的な形であると紹介された訳です。また、「各地の鋤と比べると、田畑ともに用いるのに最も便利である」と思い、この形を作って使ってみるよう人にすすめたことがあった」とまで書いています。

この鋤は、「じゅるい田」(湿田)や「ねばい田」(粘土質の田)でも、足で踏みこんで土を起し、すくい上げる作業がしやすく、よく普及しました。野洲市ではごくあたり

「江州鋤」(「農具便利論」1822(文政5)年刊より)



まえのように多くの農家で用いられ、滋賀県の各地でもよくみられる形です。

農具を作ったり直したりする鍛冶屋は、「野鍛冶」と呼ばれ、農村では欠かせない職人でした。特に、鋤や鋤、鎌などの修理、刃を付け直す「サツカケ(先掛け)」の仕事が中心でした。野洲市でも場所によって土地の深さや質はさまざま、注文に応じて、使う人の体にあわせて、形や寸法を考えながら仕事をしたといえます。

このように、一見何気なく見える道具も、長い歴史のなかで改良された結果、大きさや形が工夫され、地域性を伝えてきたことがうかがえます。

(学芸員 行俊勉)